

詩 四 篇

横浜拘置所より⁽¹⁾

五郎

斗いを知らない日雇!

俺が十代の時ベトナム戦争に間接的にかり
出された

斗いを知らない日雇

仕事がない!

金がなく!

明日がない!

そんな俺達の前に

ベトナム行きの仕事が来た、

武器! 弾薬! 食糧を荷上げて

その船に乗り

ベトナムで荷おろし

これをするのが俺達日雇

ベトナム沖には

中国ベトナムの機雷が沢山あり

死んでも殺されても当然だ

と言われている日雇

何がルンフ口だ!

何か労働者だ!

俺達がなぜベトナム戦争に

帝国主義の予備軍としてかり出されるのだ!

なぜベトナム沖で死ななければいけないの

だ!

と悲しんでみても

何もはじまらない

斗いを知らない俺達日雇

だからこそ俺達は斗っているのだ!

悲しみを怒りに

怒りを怒みに

怒みを武器に

斗っているのだ

第二のベトナム

朝鮮戦争には

内乱で革命的に斗うために

それにふれて沈没する事もあると言う

そんな命をかける仕事でも

又

反革命の仕事でも

先を争って行った斗いを知らない俺達日雇

身寄りがない!

きたない!

はじだ!

と言う理由だけで

誰も引きとりにこない

友の死に対しても

かわいそうにな……!

これ一言で終わる

ベトナム沖で死んだ仲間

ルンフ口反革命日雇

と言う烙印を押されている

組織が必要なのだ!

だから斗っているのだ!

斗いを知らない日雇

これは苦であり

一部でも今は斗っている

だから俺は二二へ獄中へにいるのだ!

日雇完全解放斗争勝利!

米帝バフカイライ政権による労働者の国北

チヨソン侵略阻止!

セクトが来る!

大変だ! 大変だ! セクトが来る

どこにくる

寄せ場にくる

大変だ! 大変だ! セクトが来る

どこにくる

毒にくる

大変だ! 大変だ! セクトが来る

何しにくる

俺達の斗いをセクト主義で破壊にくる
「日本の労働運動を破壊して来たのは誰達だ」

社共の日和見修正主義者と
一切のセクト主義者どもではないか？
分裂に分裂をかざりて

斗いを破壊して来たのではないか？

革命とは人民が斗うもので

セクト主義者のものではない！

大変だ！ 大変だ！ セクトが来る

なぜ来る

俺達を利用にくる

大変だ！ 大変だ！ セクトが来る

なぜくる

俺達をルンペン口と言ってきてなぜ来る

大変だ！ 大変だ！

俺達の寄せ場に

セクトが来る！

「革命とは何のために誰がするものか？」

誰よりも知っている

俺達が

生きるための斗いをすすめるために

大阪市庁舎にデモに行った時

俺達はさんざんカブト虫にやられて釜に帰

ってきた時

西成署のケタオチどもは

俺達を弾圧すべくヤ田の入り口で

俺達をまろめまえていて

襲いかかって来た！

その時一人のオッサンが

ポリ公の棍棒で殴られそうになり

故・同志コーチャンは

そのポリ公とオッサンの前に進み出て

オッサンの身がわりになり殴られたけね

そこたら棍棒がおれたけ

俺達は故・同志コーチャンが

日雇完全解放斗争戦士としての

誰よりも勇敢さを持っているのを知っている

革命とはすべての人民が
平等の幸せを得るためにする
人民大衆の大事業だ

それをおれた革命は工で革命だ

一切のセクト主義者はこれをおれた己一黨主

義

スターリン主義になっっているから分裂をす

るのだ

分裂は敵であり

断じて味方ではない！

俺達の指導者 故同志コーチャン

誰よりも勇敢で

誰よりも俺達日雇の気持を分かるところで

いた

日雇完全解放斗争戦士

故・同志コーチャン

俺はコーチャンの勇敢さを

暴動の時はいつか

俺達の前に立ち

俺達を守るがごとくに

アジでいて

オッサンがやられそうになると

オッサンの前に進み出たけ

俺達はコーチャンが誰よりも勇敢で

俺達日雇の気持に近づこうとこしていたのを

知っている

俺達をたえず斗いにみちびこうとこしていたわ

俺がセンターで

ケタオチ手配もしてていたら

ケタオチポリ公が俺をパクリにきた時

ジョーヤばい逃げろ……

と俺を助けてくれたけ

俺はコーチャンの勇敢さを誰よりも知って

いる

そんな俺達の同志コーチャンをケタオチど

もは

デッチ上げ指名手配にした

その中で俺達は何もやりきれないために

コーチャンは

俺達に野だれ死ぬ事を拒否する事を教えて

く水て

オキナワで

己の体を武器にして斗って死んだ!

俺達はその斗いから何かを受けつぎ斗うよ!

俺は俺に斗う事を教えてくれた

俺達の指導者故・同志コーチャンと

共にこれからも斗いたいと思う

いつまでも いつまでも

共に日雇完全解放斗争を斗いつづけよう!

怒り!

ヒモで!

フラックジャックで!

包丁で!

一歩一歩前進してこそ

俺達の明日は見出し出せるのだ

被抑圧者の

パレスチナの戦士

エリトリアの戦士

ボリワリオ戦線の戦士

南米・東南アジアの解放戦線の戦士は

シオニスト・帝国主義の首枷から

自己を解放するため

銃を取り

解放戦士として斗っている

俺達の斗いとは

俺達が斗わなければありえない

すべての日雇の仲間よ

パレスチナの戦士

エリトリアの戦士

南米・東南アジアの解放戦線の戦士

に負けない様に

自己を日雇完全解放斗争戦士に

ポントウで!

銃で!

あらゆるものを使い

いつかためえ達

日雇の

資本家の

奴隷

ケタオチポリ公を

殲滅する!

ケタオチどもよ

良くおぼえておけ!

日雇完全解放斗争戦士になろう!

俺達のすべての日雇の仲間よ

日雇完全解放斗争戦士になろう

俺達の生きる道は何か?

俺達の進む道は何か?

斗いだ! 俺達の斗いだ!

団結だ! 俺達の団結だ!

俺達が明日に向かって

高め斗いつづけよう——!

寄せ場を

自己を

解放しよう、……!

日雇完全解放斗争勝利!

「労働者」はブルジョアの言葉

前略 いつも労働者渡世ありがとう。こ
の労働者と言うのは、差別で、何か、ムー
と怒りが感じる。コーチャンは、労働者と
使った時、俺達に対する差別があるから、
そのいせみをこめて、使ったと思う、労
働者とは俺達を労働者として、認めない、
ブルジョア・日雇の言葉であり、労働者以
下のクズと言う言葉が労働者、ルンペン、
人夫、アンコ、フー太郎、こう言う呼び名
だと思えます。

もち、労働者渡世を、作っている人が、

差別を肯定するのでなければ、弱者救済は差別発言だと思われざるべきです。俺は差別に対しての反論の一切を奪われてきました。釜にいろ時もとうでした。だけれど俺が、この二年の獄中生活をする中で、差別は俺達の利益にならないと言う事を知りました。これからぞ、共に、差別に対してを闘って行きますよう。

俺は詩なんて、分らないけれど、獄中で井之川巨と言う詩人に知り合い、詩を書く様になりました。詩になつていないけれど、詩をタツ書いて送ります。もう60コ書きました。俺達の同志コーチャンを詩人でした。コーチャンの様になく書けないけれど、俺は、今、ここに入つて、釜・弄・山谷・高橋・馬場、様々な思い出を思い出しています。釜では、俺が初めて斗いを知ったとこだ、俺の第二の古里です。シャバに出たら、釜に行くぞー！みんな

な会おうなー！弄のガキを連れて行きます。NHKに元氣かい？弱者救済世ありかと、ではヌートラチャンによるくくと言つて下さいね。

日雇完全解放斗争勝利

に向けて共に斗わん！

後と先ではえら違い

天皇陛下様がパトカーの先導で奈良の名所旧跡をぐらんになるという日の朝、現場へ向かう車の後からパトカーが来る。そのパトカーには屋行の私服が……

同じついでくるなら、天皇のように先導として現るまで送ってくれればいいのに。こみったれポリ、

クタバレ、天白王ノ。求代までぞ